次のステップ

この章は、次の項で構成されています。

- Cisco Prime Network Registrar の設定 （1 ページ）
- Cisco Prime Network Registrar の使用 （2 ページ）
- サーバの起動と停止 （3 ページ）
- サーバのイベントロギング （5 ページ）
- REST API の無効化 （5 ページ）

Cisco Prime Network Registrar の設定

Cisco Prime Network Registrar のインストール後、次のタスクを実行できます。

- Cisco Prime Network Registrar の概要：『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Quick Start Guide』を参照してください。
- DHCP アドレス、DHCP フェールオーバー、および DNS 更新のセットアップ：『Cisco Prime Network Registrar 11.1 DHCP User Guide』を参照してください。
- 権威 DNS サービスとキャッシング DNS サービスのセットアップ：『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Caching and Authoritative DNS User Guide』を参照してください。
- ローカルとリージョナルの管理、 などの管理タスクの実行：『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Administration Guide』を参照してください。
- CLI による Cisco Prime Network Registrar の設定と管理：『Cisco Prime Network Registrar 11.1 CLI Reference Guide』を参照してください。
- REST API による Cisco Prime Network Registrar の設定と管理：『Cisco Prime Network Registrar 11.1 REST APIs Reference Guide』を参照してください。

Cisco Prime Network Registrar の使用

インストールしたローカルクラスタとリージョナルクラスタを管理するには、スーパーユーザー管理者を作成し、適切なライセンス情報を入力する必要があります。これを行うには、Cisco Prime Network Registrar に初めて接続するときに、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco Prime Network Registrar の Web UI または CLI を起動します。

- Web UI にアクセスするには、Web ブラウザを開き、HTTPS（セキュアログイン）の Web サイトを使用します。

  `https://hostname:https-port`

  値は、次のとおりです。

  - *hostname* はターゲットホストの実際の名前です。
  - *https-port* はデフォルトの HTTPS ポートです（ローカルの場合は8443、リージョナルの場合は8453）。

- CLI を起動するには、次のように入力して nrcmd を起動します。

  install-path`/usrbin/nrcmd -R -N` *username* `-P` *password*

  作成する管理者アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。スーパーユーザー管理者アカウントを作成する必要がある場合は、パスワードの確認を求められます（初回ログイン時）。

  （注） -R は、リージョナルクラスタに接続する場合にのみ指定します。

ステップ 2 ユーザー名とパスワードを入力して、スーパーユーザー管理者を作成します。

- Web UI：[管理者（Admin）] フィールドと[パスワード（Password）] フィールドにそれぞれユーザー名とパスワードを入力します。次に、[追加（Add）] ボタンをクリックします。

ステップ 3 デフォルトでは、スマートライセンスは Cisco Prime Network Registrar 11.1 で有効になっています。アラートウィンドウの [スマートライセンスの設定（Configure Smart Licensing）] リンクをクリックして、[スマート ソフトウェア ライセンス（Smart Software Licensing）] ページを開き、スマートライセンスを設定します。詳細については、『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Administration Guide』の「*Use Cisco Smart Licensing*」の項を参照してください。

従来のライセンスを使用する場合は、スマートライセンスを無効にする必要があります（『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Administration Guide』の「*Disabling Smart Licensing*」の項を参照してください）。次に、[従来のライセンスの使用（Use Traditional Licensing）] をクリックし、次のようにライセンス情報を入力します。

- Web UI：[参照（Browse）] をクリックし、ライセンスファイルを探します。
- CLI：次のように、ライセンスファイル名の絶対パスまたは相対パスを入力します。

  `nrcmd> license create` *filename*

（注） リージョナルクラスタにライセンスを追加する必要があります。つまり、リージョナルを最初にインストールする必要があります。ローカルクラスタは、最初のログイン時にリージョナルクラスタに登録する必要があります。リージョナルクラスタに追加されたライセンスに基づいて、ローカルのサービス（dhcp、dns、および cdns）を選択できます。

ステップ 4 ステップ 2 で作成されたスーパーユーザーのユーザー名とパスワードを入力して、Web UI と CLI にログインします。

他の管理者アカウントを作成して、割り当てられたロールに基づいて特定の機能を実行することができます。詳細については、『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Administration Guide』の「*Managing Administrators*」の章を参照してください。

サーバの起動と停止

インストールが正常に完了し、サーバを有効にした場合は、マシンを再起動するたびに Cisco Prime Network Registrar の DNS サーバおよび DHCP サーバが自動的に起動します。

TFTP サーバの場合、次の Cisco Prime Network Registrar CLI コマンドを使用して、ブートアップ時に再起動できるようにする必要があります。

```
nrcmd> tftp enable start-on-reboot
```

クラスタ内のすべてのサーバは、Cisco Prime Network Registrar のリージョナルサーバ エージェントまたはローカルサーバエージェントによって制御されます。サーバを停止または起動するには、サーバエージェントを停止または起動します。

サーバの停止と起動の詳細については、『*Cisco Prime Network Registrar 11.1 Administration Guide*』を参照してください。

インストールまたはアップグレードが成功すると、Cisco Prime Network Registrar サーバーが自動的に起動します。システムを再起動する必要はありません。

サーバーを起動および停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 SuperUser としてログインします。

ステップ 2 start 引数を指定して nwreglocal スクリプトまたは nwregregional スクリプトを実行し、サーバーエージェントを起動します。

ローカルクラスタの場合

```
# systemctl start nwreglocal
```

リージョナルクラスタの場合

```
# systemctl start nwregregional
```

ステップ 3 Cisco Prime Network Registrar サーバーのステータスを確認します。次のコマンドのいずれかを実行します。

`# ./cnr_status`（*install-path*/usrbin ディレクトリで使用可能）

または

```
# systemctl status nwreglocal
```
（ローカルクラスタの場合）

```
# systemctl status nwregregional
```
（リージョナルクラスタの場合）

ステップ 4 stop 引数を指定して nwreglocal スクリプトまたは nwregregional スクリプトを実行し、サーバーエージェントを停止します。

ローカルクラスタの場合

```
# systemctl stop nwreglocal
```

リージョナルクラスタの場合

```
# systemctl stop nwregregional
```

ローカル Web UI を使用したサーバの起動または停止

ローカル Web UI でサーバーを起動または停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [操作（Operate）] メニューから、[サーバ（Servers）] サブメニューの [サーバの管理（Manage Servers）] を選択して、[サーバの管理（Manage Servers）] ページを開きます。

ステップ 2 DHCP サーバ、DNS サーバ、CDNS サーバ、TFTP サーバ、BYOD サーバまたは SNMP サーバを起動または停止するには、[サーバの管理（Manage Servers）] ペインでサーバを選択し、次のいずれかを実行します。

- [サーバの起動（Start Server）] ボタンをクリックして、サーバを起動します。
- [サーバの停止（Stop Server）] ボタンをクリックして、サーバを停止します。

ステップ 3 サーバをリロードするには、[サーバの再起動（Restart Server）] ボタンをクリックします。

リージョナル Web UI を使用したサーバの起動と停止

リージョナル Web UI でサーバーを起動または停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [操作（Operate）] メニューから、[サーバー（Servers）] サブメニューの [サーバーの管理（Manage Servers）] を選択して、[サーバーの管理（Manage Servers）] ページを開きます。

ステップ 2 SNMP サーバーを起動または停止するには、[サーバーの管理（Manage Servers）] ペインでサーバーを選択し、次のいずれかを実行します。

- [サーバの起動（Start Server）] ボタンをクリックして、サーバを起動します。
- [サーバの停止（Stop Server）] ボタンをクリックして、サーバを停止します。

ステップ 3 サーバをリロードするには、[サーバの再起動（Restart Server）] ボタンをクリックします。

サーバのイベントロギング

Cisco Prime Network Registrar を起動すると、システムアクティビティのロギングが開始されます。サーバは、デフォルトで次のディレクトリにすべてのログを保持します。

- ローカルクラスタ：/var/nwreg2/local/logs
- リージョナルクラスタ：/var/nwreg2/regional/logs

ログをモニタするには、**tail -f** コマンドを使用します。

REST API の無効化

Cisco Prime Network Registrar 11.1 をインストールするか、以前のバージョンから 11.1 にアップグレードすると、REST API はデフォルトで有効になります。REST API を無効にする場合は、次の手順を実行します。

ローカルおよびリージョンの詳細 Web UI

ステップ 1 [操作（Operate）] メニューの [サーバー（Servers）] サブメニューで [サーバーの管理（Manage Servers）] を選択して [サーバーの管理（Manage Servers）] ページを開きます。

ステップ 2 左側の [サーバーの管理（Manage Servers）] ペインの [CCM] をクリックします。[ローカルCCMサーバーの編集（Edit Local CCM Server）] ページが表示されます。このページには、すべての CCM サーバー属性が表示されます。

ステップ 3 [制御設定（Control Settings）] セクションで、[is-rest-enabled] 属性値を [false] に設定して REST API を無効にします。

ステップ 4 [保存（**Save**）] をクリックして、変更内容を保存します。

CLI コマンド

REST を無効にするには、**ccm disable is-rest-enabled** を使用します。

REST を有効にするには、**ccm enable is-rest-enabled** を使用します。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。